こんなところに仏教用語

身近な仏教用語を紹介しています。

ありがとう

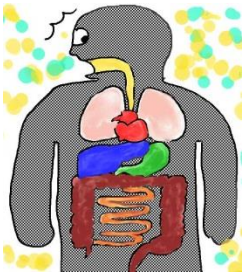
「娘たちには主人が夢の中に出て来るのに、私には出てきません。どうしてでしょうか」という質問をお参り先で受けることがあります。夢は確かに不思議です。しかし、今生きているということも不思議な事です。

今回のテーマは「ありがとう」です。現在ではそのほとんどが「Thank you」と、お礼の表現で用いられていますが、漢字で書けば「有難う」。「有る」＋「難し」＝「有難し」＝「有ることが難しい」

ひとつのものが出来上がるのに、どれだけの縁が重なって成り立っているかを考えれば、有難しの本来の意味が浮かんできます。

お釈迦様語録の『法句経』の中には、「ひとの生をうくるはかたく、死すべきものの、生命あるもありがたし」とあります。

今ここにあるという、有難さは平生ではなかなか感じられるものではありません。失ってから気づくことがほとんどです。仏法は、平生に有る事の難しさ・尊さを教えてくれます。



「答えがわからないことが答えと知った」「谷川俊太郎『見舞い』より

安心（あんじん）

仏教用語は難しいと言われる理由の一つに、読み方の違いがあります。例えば今回の「安心」、皆様はどう読まれましたか。「アンシン」と読みませんか。ところが、仏教では「アンジン」と読むのです。

安らかな心と書いて安心（あんじん）。仏教のキーワードです。

某大国の某大統領候補者が言いました。日本と韓国は核武装をしてもいいと。昨今の国政事情は、核を持つか持たないかでバランスが保たれ、安心するようです。しかし、条件付きの安心はその条件が崩れれば不安になります。ゴジラ作品のファン投票で第一位に輝いた「ゴジラ VS ビオランテ」。その中で、ゴジラ細胞から抗核バクテリアを作成し、核を無力化する。しかし、世界のパワーバランスは崩れてしまう。と、子供心に核でバランスを保っているのだと思ったことがあります。

本当の安心とは無条件です。それは、母親に抱かれる子供の境地でしょう。お金や見返りなどの取引はないのです。阿弥陀如来のすくいの対象は、無条件です。ただただ親様におまかせするのが浄土真宗の安心（あんじん）です。